

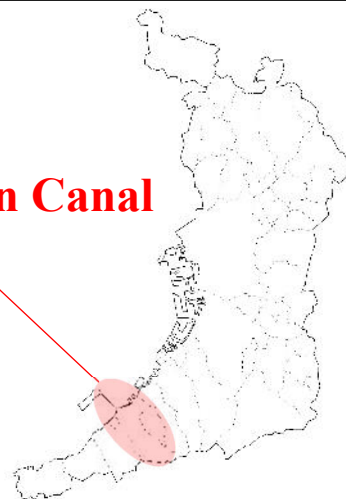
世界かんがい施設遺産

ゆかわようすい

井川用水

[大阪府・泉佐野市]

Yukawa Irrigation Canal



～中世から現代に継承されるかんがいシステム～

■井川用水は、約800年前から存在するかんがい用水路で、当時まだ荒野であった日根野地区の開墾に重要な役割を果たしてきた。

井川用水が位置する泉佐野市は、かつて九条家という貴族(荘園領主)が持つ「荘園」と呼ばれる私有地「日根荘」であった。その日根荘の荒野開発過程において重要な役割を果たしたと考えられるのが井川用水である。

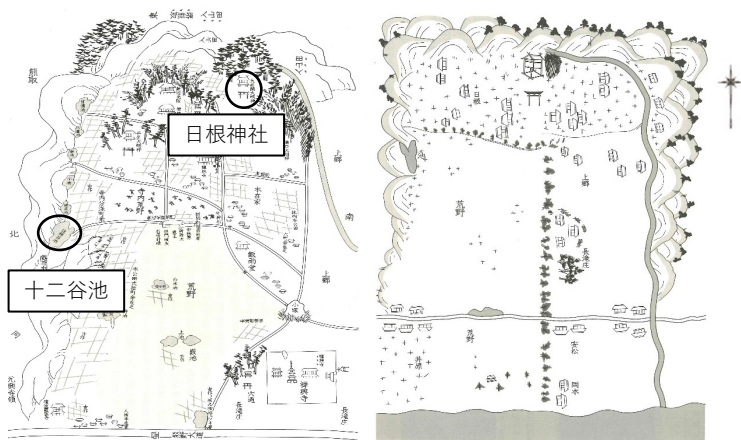
■井川用水の成立時期には諸説あるが、1316年に描かれた「日根荘日根野村荒野開発絵図」には、開墾の様子や井川の終着点である十二谷池も描かれていることから、その当時には既に用水路が利用されていたと考えられている。

■井川用水は櫛井川から取水し、最後は十二谷池へと流れ込むの全長約2.9キロメートルの用水路であるが、この間の高低差は約5メートルであり、このわずかな高低差の重力式かんがい用水路の敷設は当時の土木技術の高さを物語っている。

■現在も農業用水として使用されている井川用水や十二谷池は、国の史跡として指定されており、当時の農村の風景や開墾の歴史を知る上で貴重な遺産である。



十二谷池上空からの写真



和泉国日根荘荒野開発絵図(約800年前)



慈眼院境内の水路



井川



現在の井川用水遠景 (航空写真)